

F. 官能検査試験実施要領

I. 目的

たばこに使用する農薬について、その薬害の一つとして、農薬に起因する喫味における影響の有無に係る科学的知見を得る。

II. 試験方法

1 試験区の準備等

① 試験ほ場の選定及び整備

試験区の設定に先立ち、たばこの生育について不斉一の発生を避けるため、試験ほ場とする場所においては施肥管理、耕起・整地等をほ場全体に均一に行う等、試験区間における試験結果の偏りの発生を避けるようほ場を整備する。

② 試験区の設定

試験区は、薬剤処理区のほかに無処理区を設定する。また、試験計画書で指示がある場合、対照薬剤区（登録薬剤であり、試験を予定している有効成分と同等の作用性を有している剤）を設ける。

茎葉散布剤（わき芽抑制剤を含む）の場合、たばこの中葉、上葉別にそれぞれ処理区を設け、区間に番外畦を設ける。

③ 試験区の配置方法

試験区は反復を取り、肥沃度等が偏らないよう適切に配置する。

④ 供試品種

原則として、試験を実施予定の地域において主に栽培されている品種を用いる。

⑤ 供試株数

試験区ごとに、中葉および上葉の乾葉が各 1 kg 以上採取できるように供試株数を設定する。残留分析用試料を同時に採取する場合、それに合わせて供試株数を設定する。

⑥ 試験区の栽培管理

栽培地域の標準的な耕作方法によって栽培する。栽培中、やむを得ない事情による農薬使用は全試験区とも、均一かつ必要最小限度にとどめる。

2 供試薬剤の処理方法等

① 処理時期

土壌くん蒸剤あるいは土壌処理剤の場合は、農薬登録予定の使用時期および使用方法で処理する。茎葉散布剤の場合は、農薬登録予定の内容で、最も収穫時期に近い時期を最終処理時期とし、原則7 日の間隔で、最も多い使用回数で処理する。ただし、2 回目以降の処理が降雨等により、所定の間隔での処理が実施不可能である場合は、以降の実施可能な日において速やかに処理を行うとともに、所定の期間経過後に収穫する。

② 処理量

試験計画書に基づいて土壌くん蒸剤あるいは土壌処理剤の場合は、農薬登録予定の使用量の最も多い量を処理する。茎葉散布剤の場合は、農薬登録予定の使用濃度の最も高い濃度で処理する。

③ 薬剤処理にあたっての留意事項

- ・農薬の剤型の種類に応じた薬剤処理を適切に実行する。茎葉散布剤の場合、原則として所定の薬量を試験対象の全株に均一に散布する。葉の表裏にも散布する。
 - ・散布器具を使用する場合は薬剤処理の前に必ず点検を実施する。
 - ・農薬の飛散および流亡を避けるため農薬処理時の気象条件に十分注意する。
- 3 その他試料調整にあたっての留意事項
- 薬剤処理前後の気象条件には十分注意するとともに、薬剤の処理、あるいは散布から収穫までの期間の気象条件を記録する。
- 4 収穫および乾燥法
- ① 収穫部位
- 原則として、検査対象葉位が適熟に達したときに、株当たり 2～3 枚ずつ収穫する。茎葉散布剤においては、薬剤処理後所定の日数が経過したのちに、原則として中葉、上葉とも適熟葉 2～3 枚を収穫するが、葉の成熟状況によっては多少着葉位置が変わっても適熟葉の収穫を心がける。その場合、処理区および無処理区とも同様の着葉位置の葉を収穫する。
- ② 乾燥法
- 乾燥は各試験地における慣行法で行うが、試験区ごとに区分して乾燥を行い、それぞれ貯蔵する。
- 5 試料の採取
- 乾葉は試験区ごとに選別し、処理区および無処理区とも各1 kg 採取し、これらの乾葉を官能検査の試料とする。

Ⅲ. 官能検査の方法

- 1 たばこへの喫味の影響について一般的に用いられている官能検査により行う。
- 2 官能検査は人間の感覚に頼って検査を行うため、検査環境の違いやその日の検査担当者の体調による検査結果のバラつき等検査結果への影響を最小限に抑えるようにする。
- 3 官能検査にあたっては3 名以上で行うものとし、たばこの官能検査について十分な知識および経験のある者が行う。

Ⅳ. 報告事項

報告書には以下について記載をすること。

- (1) 試験場所（試験機関名及び組織名）、試験実施者
- (2) 被験物質名（ロット番号）、含有率
- (3) 試料採取場所
- (4) 供試品種、栽培管理に係る概要
- (5) 処理概要（処理量、処理回数、試験区の面積、処理方法等）
- (6) 試料採取、収穫後の乾燥方法に係る概要
- (7) 温度、降水量を記録した気象表
- (8) 官能検査結果

<記入例>

- 1 試験対象 官能検査
- 2 供試器材名 ○○○○ (メーカー名)
・有効成分
・Lot No.
- 3 試験実施機関 日本たばこ産業株式会社 葉たばこ研究所所内本畑
- 4 試料採取場所 栃木県小山市
- 5 試験区別および試験方法

(1) 品種名 第○○○○種 ○○○

(2) 試験区別および供試面積

試験区別	区 別	濃 度	施用量	施用回数	供試面積
1 区	無処理				0.8 a
2 区	供試器材名	2,000倍	150 $\frac{g}{kg}$ /10 a	中葉1回、上葉1回	0.8 a
3 区	対照薬剤名	2,000倍	150 $\frac{g}{kg}$ /10 a	中葉1回、上葉1回	0.8 a

(3) 処理方法

具体的な処理方法を記入する。

散布器具、散布時期、散布位置、散布時の天候 など

(4) 試験ほ地の概要

地目	地勢	土壌種類	土性	耕土の深さ	排水の良否
				cm	

(5) 栽培概要

- 1) 施肥量 (kg/10 a) N : 15.0, P205 : 30.1, K20 : 37.5, 堆肥 : 1,800
- 2) 畦株間距離 120cm×35cm (2,380本/10 a)
- 3) 被覆方法 全期間折衷マルチ
- 4) 移植月日 5月8日
- 5) 土寄月日 6月6日
- 6) 心止月日 7月17日

(6) 供試農薬以外に使用した薬剤

試験区別	農 薬 名	濃 度	施用量	施用月日
1, 2, 3区	○○○○		20kg/10 a	
2, 3区	○○○○	2,000倍	150 $\frac{g}{kg}$ /10 a	
2, 3区	○○○○	100倍	50ml/株	

(7) 試料採取

試料の着位	試験区別	薬 剤 処 理		試 料 採 取		薬剤処理から収穫までの		
		月 日	天 候	月 日	天 候	日 数	降水日数	降水量
						日	日	mm
中 葉	1 区							
中 葉	2・3区							
上 葉	1 区							
上 葉	2・3区							

(8) 収穫後の処理方法 所内標準乾燥

(9) 官能検査 令和○年○月○日から○月○日の間、△△において、調査を行った。

6 試験結果

表-1 薬剤処理から試料採取までの気象表 (小山アメダスポイント)

月 日	平均気温 ℃	最高気温 ℃	最低気温 ℃	日照時間 h	降水量 mm	摘要
中葉収穫区						
6月25日						1回目散布
6月26日						
6月27日						
6月28日						
6月29日						
6月30日						
7月 1日						2回目散布
7月 2日						
7月 3日						
7月 4日						
7月 5日						
7月 6日						
7月 7日						
7月 8日						
7月 9日						
7月10日						
7月11日						
7月12日						中葉収穫
上葉収穫						
7月20日						1回目散布
.						
.						
.						
.						
.						

表-2 官能検査結果

供試着位	調査結果
中葉	
上葉	
検査員	

注) 『斜体』で記載している文字、数値は、記入例であるので、参考にして記入する。